

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科： 数学

科目： 数学 I

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 5 組

教科担当者： (1組：皆川・原木) (2組：樋口・井上裕) (3組：浅野・皆川) (4組：原木・樋口) (5組：原木・井上寛)

使用教科書： ( 最新 数学 I )

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	1. 多項式 (1) 2. 多項式の加法・減法・乗法 (2) 3. 展開の公式 (1) 4. 式の展開の工夫 (1) 5. 因数分解 (2) 6. いろいろな因数分解 (1.5) 節末問題、発展 (1.5) 中間考査  教材：数研出版・パラレルノート 数学 I	【知識・技能】○指算法則を理解し、計算に用いることができる。○分配法則を用いて、式を展開することができる。○展開の公式を用いて、式を展開することができる。○因数分解の公式を用いて、式を因数分解できる。 【思考・判断・表現】○式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。○項を組み合わせ、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】○単項式、多項式とその整理の仕方に関心を持ち、考察しようとする。○式の特徴に着目して複雑な式の因数分解に取り組もうとする。	○	○	○	18
中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	7. 実数、研究 (1.5) 8. 根号を含む式の計算 (2) 問題、発展 (1)  教材：数研出版・パラレルノート 数学 I	【知識・技能】○平方根の意味・性質を理解している。○平方根を含む式の計算ができる。○分母の有理化の方法について理解している。 【思考・判断・表現】○自然数、整数、有理数、実数の各範囲で、四則計算について閉じているかどうかを考察できる。○実数が数直線上の点として表されることを考察できる。○平方根の性質、平方根の積と商などについて、一般化して考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。○循環小数を分数で表す方法に興味・関心をもつ。	○	○	○	13

1 学期

<p>不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。</p>	<p>9. 不等式 (1) 10. 不等式の性質 (1) 11. 1次不等式の解き方 (2) 12. 連立不等式, コラム (1) 13. 不等式の利用 (1) 期末考査</p> <p>教材: 数研出版・パラレルノート 数学 I</p>	<p>【知識・技能】○不等式の意味を理解し、数量の大小を不等式を用いて表すことができる。○不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。○連立不等式の解を、数直線を用いて表示し、解を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○具体的な数に対して、不等式の解であるかどうかを判断できる。○不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。○身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。○連立不等式の解を考察しようとする○身近な問題を、1次不等式を用いて解決しようとする。</p>	○	○	○	13
<p>集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>1. 集合と部分集合 (1) 2. 共通部分, 和集合, 補集合 (1) 3. 命題と集合 (2) 4. 命題と証明, 研究 (2)</p>	<p>【知識・技能】○部分集合, 空集合, 2つの集合の包含関係を理解している○共通部分, 和集合, 補集合を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。○ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。</p>	○	○	○	12
<p>2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>1. 関数 (1) 2. 関数とグラフ (1) 3. <math>y=ax^2</math>のグラフ (1) 4. <math>y=ax^2+q</math>のグラフ (1) 5. <math>y=a(x-p)^2</math>のグラフ (1) 6. <math>y=a(x-p)^2+q</math>のグラフ (1) 7. <math>y=ax^2+bx+c</math>のグラフ, 研究 (3) 8. 2次関数の最大・最小 (3.5) 9. 2次関数の決定 (1.5) 中間考査</p> <p>教材: 数研出版・パラレルノート 数学 I</p>	<p>【知識・技能】○2次関数<math>y=ax^2</math>のグラフの頂点, 軸について理解している。○2次関数<math>y=a(x-p)^2+q</math>のグラフの頂点, 軸について理解している。○<math>y=ax^2+bx+c</math>を<math>y=a(x-p)^2+q</math>の形に変形し、そのグラフをかくことができる。○2次関数の最大値, 最小値を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○2次関数<math>y=a(x-p)^2+q</math>のグラフの特徴を考察することができる。○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、<math>D=b^2-4ac</math>の値から考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○一般の2次関数 <math>y=[ax]^2+bx+c</math> について、頂点, 軸の式を考察しようとする。○身近な問題を、2次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。</p>	○	○	○	33
<p>2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする</p>	<p>10. 2次方程式 (2) 11. 2次関数のグラフとx軸の共有点 (2) 12. 2次不等式 (3) 13. 2次不等式の利用 (1) 節末問題 (1) 期末考査</p>	<p>【知識・技能】○因数分解を用いて、解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。○2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、<math>D=b^2-4ac</math>の値から考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。</p>	○	○	○	23

2  
学  
期

